

# 第4回体力・運動能力向上の場に関する分科会 会議録

## 【日時】

令和2年10月8日（木）午後2時05分～午後2時45分

## 【場所】

郡山市こども総合支援センター 3階 研修室

## 【次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事  
(1) 遊び場に関する意見のまとめについて  
(2) その他
- 4 その他
- 5 閉会

## 【出席委員】

5名（敬称略）

大川原 順一、佐藤 真澄、濱津 真紀子、福内 浩明、山田 祐陽

## 【欠席委員】

4名（敬称略）

佐藤 一夫、隅越 誠、箭内 孝仁、大和田 正恵

## 【事務局職員】

7名

こども未来課：伊藤 恵美（課長）、穴戸 正浩（課長補佐）、  
鶴川 哲郎（主任主査兼こども企画係長）、小林 祐貴子（こども企画係主査）  
こども支援課：伊藤 克也（課長）、佐藤 嘉洋（課長補佐）、  
佐藤 香（主任主査兼子育て支援係長）

## 【配布資料】

- ・子どもの遊び場の今後の運営に関する意見について
- ・＜参考資料＞事前の書面による意見聴取の主な意見（抜粋）

.....

### 1 開会

（穴戸補佐）

定刻となったので、ただいまより「第4回体力・運動能力向上の場分科会」を開催する。

本日は9名中5名の委員が出席しており、郡山市子ども・子育て条例第5条第2項の規定の準用により、会議が成立していることを報告する。

### 2 会長あいさつ

【大川原会長から挨拶がある。】

### 3 議事

【議事の前に、穴戸補佐から本日配布した資料の確認がある。】

## 【傍聴者入場】

(穴戸補佐)

それでは「議事」に移るが、以降の会議の進行については、郡山市子ども・子育て会議条例第5条第1項の規定を準用し、大川原会長に議長をお願いする。

(大川原会長)

それでは、議長を務めさせていただく。

まず、遊び場に関する意見のまとめについて、事務局から説明願う。

### 【事務局：伊藤未来課長から説明がある。】

○東京電力第一原子力発電所事故の影響により、子どもたちの遊びが制限される中、子どもたちの体力・運動能力向上の取組の1つとして郡山市が整備・運営を行ってきたペップキッズこおりやま及びその他市内4か所の遊び場の今後運営について今まで審議を行ってきた。

○遊び場事業が震災復興事業として行われ、国の交付金を財源としてきたことから、本分科会開始当初は、財源を含めた今後の運営ということで、財源に重きをおいた内容で進めていた。

○復興庁はこれに係る交付金について概算要求しており、復興庁としてはこれらの交付金を継続していきたいという考えが示されたところであるが、今後の財源は不透明な状況である。

○前回分科会の中では財源が不透明なままでは議論がしにくいと意見をいただいているが、財源以外の意見もいただいております、また、郡山市の子どもの現状、遊び場の課題と新たな今後の活用方法ということで現状と課題を示し、委員の皆様から今回会議の前に意見をいただいている。

○皆様からいただいた意見を分科会の意見としてまとめている。

### 【事務局：鶴川係長から委員配布資料に沿って説明がある。】

○遊び場の現状と課題について

○遊び場の新たな活用方法について

(大川原会長)

皆様に御意見をいただきたいと思う。

(福内委員)

私自身も毎週のようにいろいろな遊び場に行くが、お母さんたちは遊び場が必要かどうかに関して言えば、近くの公園にしてもまだ放射線量の測定器があり線量が掲示されている、世間一般的には10年たったのだからこういうことをやる必要はないと思っているかもしれないが、郡山市のお母さまたちは、実際はまだまだそうではなく、(震災の影響は)終わっていないと思っているだろうし、実際に普通の公園に行っても子どもの数が圧倒的に少ないし、やっと汚染土壌の搬出が終わったばかりの場所で遊ばせるのは、まだまだ通常どおりにはいかない状況だと思う。

引き続き、ぜひ遊び場を守っていただきたい。

また、委員からの意見の中で、「新たな遊び場の活用」の「子ども自らの遊びの発見」で、意見の中には遊びの指導は要らないという意見もあり、もっともだと思う。ペップキッズこおりやまを見ても、私が子どもの頃の遊びの道具と現在の屋内遊び場にある道具は違っていて、遊びを指導するよりも、遊びを見守っていただける方は必要だと思っている。遊びをああしなさい、こうしなさい、と大人が言う必要はないと思っている。

(大川原会長)

他に意見はないか。

(濱津委員)

委員からの意見の中で、保護者の理解が必要なのではないかという意見もある。肥満であるということは、大人の意識が関わっているという意見がある。情報発信についても、子どもの育ちに関わる保護者に対して、運動の必要性、子どもの遊びの必要性を訴えてかけていくことが必要だと思う。

また、先ほど遊びに大人の指導は必要はないのではないかという意見があったが、たしかに子どもが自由に遊べて創造性を発揮できるのが一番だと思うが、今ある屋内遊び場は、遊びが提供された状態で、そこで大人が期待するような遊びをする場所で、それはそれで、今の状況からすると必要な場所であると思うので、維持してもらいたい。

ただ、子どもが自由に創造性を発揮するのは自然の中だと思う。石筵牧場やカルチャーパークの水辺周辺や草木があるところでは、子どもが本当に自由に遊んでいるのを見たことがある。先ほど放射能の話もあったが、その心配がないような野山、自然の環境を提供していただいて子どもが自由に遊べることができると良いと思っている。

(大川原会長)

他に意見はないか。

(佐藤真澄委員)

子どもたちが自由に遊べる環境についてだが、遊び場についてはどうしても親と一緒に付いて行って遊ばせる場所だと思う。平日、子どもたちが学校から帰ってきて自分たちだけで自由に遊べる環境へ目を向けて、地域の公園だったり、そういった場所をもうちょっと整備して欲しいと思う。今回、新型コロナウイルス感染症の影響で地域での草むしりなどがなくなっているので、公園が荒れてしまっているので、そういったところにもっと力を入れていただけたらと思う。

(大川原会長)

他に意見はないか。

(山田委員)

自然の中で子どもたちが発見をして、色々な遊びを通して学んでいくことはものすごく大事だと思っている。震災で屋内で遊ばせようという期間が長かったのもあり外遊びを制限されたせいか、外で遊具のないところで子どもたちはどうやって遊んだらいいか分からないように感じる。公園を見ていると、ゲーム機を持って集まっているという、公園が集まる場所になっていて、子どもたちが何をしたいか分からないような気がしている。遊具には子ども達が集まっているが、何も自然のところには子どもたちが集まっていないと

個人的に思ったので、一方的に教えるというより、自然の中での遊びのヒントを与えてあげられるような地域の大人がその場所においてあげてもいいのではないかと思った。先ほど意見の中にも出てきたが、保護者は働いている方が多くて、そうすると子どもが家の中にいることが多くなってしまい、危ないから外に行かないようになってしまうと、見守っていただけて、子どもたちが自由に遊べるような環境ができたらいいな、理想的だなと思う。

また、ペップキッズこおりやまについては、遊びだけでなく、食事でも、子どもたちが料理に関わる機会が減っている中で、(ペップキッチンがあり、)食育活動と遊ぶところの両方ある施設はなかなかないと思うので、そういった点からもペップキッチンこおりやまは大事だと思う。

(大川原委員)

住んでいる地域に市の公園がいくつかあるが、私の近所の公園からは子どもの声がまるで聞こえない、違う場所で遊んでいるのかもしれないが、(近所に子どもが住んでいることは確かだが)子どもがいないのだろうかという思いをすることがある。近くで遊ばせようと思っても、ブランコが錆びついていて親が危険を感じるということが結構あるようである。どうしても子どもに親が付いていなくてはならないと思ってしまう。せっかくある公園が有効に使われていないと感じてしまうので、そういったところの整備をすれば子どもが安全安心に遊べると思う。

また、昔のように子どもが自然に集まって、そこに「ガキ大将」がいて、自然に子どもたちの間にルールができて遊んでいくという時代ではないと思うので、やはり意見の中にあつたとおり、子どもたちに大人たちがかけこであるとか遊び方を教えるというか、子どもたちが遊び出せる環境や配慮が必要だと思う。

(大川原会長)

その他、意見のまとめについて質問はないか。

(大川原会長)

ペップキッズこおりやまの運営について、現在は交付金があると思うが、十分な運営がされているが、そもそも足りているのか。

(事務局：伊藤支援課長)

現在、市からの委託でペップキッズこおりやまを運営しているが、委託をする市が、一定の、このように事業を運営したいという積算に基づいて委託をしており、それに基づいて交付金を要求しており、その分が交付されている。

(大川原会長)

ペップキッズこおりやまは市の想定する必要最低限の運営をされていて、それ以上の運営を望むならば足りないということか。

(福内委員)

前にペップキッズこおりやま運営受託法人の菊池理事長がいらしたときは、苦しいと話していたが。

(事務局：伊藤支援課長)

市が委託しているのがペップキッズこおりやまの運営部分であり、その部分に関しては市が想定する運営に対して財源がある。それ以上の事務をやろうと思うと、不足が生じてくる。

(福内委員)

法人の職員に賞与を支払う余裕もないと聞いていたので、経済界としても何とかしなければと思っていた。

(大川原会長)

非常に難しい話であり、これから市と受託法人とで話し合っていくでしょう。

(福内委員)

ペップキッズこおりやまの有料化の話だが、ペップキッズこおりやまのスタッフは、有料化もやむなしと思っていると話していた。

震災直後は、利用者側にもこの施設を大事にしていこうという意識があったが、震災後 10 年経過して、大人も子どもたちも施設を、遊具を大事にする意識が薄れているようであると聞いた。ペップキッズこおりやまがみんなの協力のもとにできていることを意識してもらうためにも、100 円でもいいから利用料をとることはやむなしではないかと、私は考えるようになった。

(大原会長)

有料化については、意見のほうにもまとめられていくと思うので、市のほうで検討してほしい。

(大川原会長)

他に意見や質問はないか。

(山田委員)

そもその問題に、子どもの肥満傾向が改善されないということがあったかと思うが、その点について、肥満傾向が改善されない理由について、運動不足だけなのか、市としてどのように考えているか伺いたい。

(事務局：伊藤支援課長)

肥満傾向について、客観的なデータとして県内の統計があった。間食の回数が多いことなどが挙げられていた。市としても各種統計を調べるなどし、考えていきたい。

(山田委員)

今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあるので、もともと甘いものを食べる習慣があったのか、判断は難しいが、甘いものを食べているということは、未就学児であれば子どもだけでは甘いものを購入できないので、おそらく親と一緒に食べていると推測される。親と子ども両方からのアプローチが必要であると思う。そういったことへの対策事業もお願いしたいと思う。

(大川原会長)

肥満と同時に、運動能力低下も見られると思うが、データはあるのか。

(事務局：伊藤支援課長)

未就学児童については全国統一のデータがない。小中学生については全国体力・運動能力調査を実施しており、その原因は震災後子どものケアプロジェクトで運動や食事についてのアンケートを実施している。未就学児についても運動や食事についてのアンケートで対象としているが、比較する全国や県のデータがない状況である。

(大川原会長)

他に意見がないようなので、ただいまいただいた意見については、意見書（案）に反映していきたいが、最終確認は会長へ一任させていただいてよろしいか。

(異議なしの声)

(大川原会長)

それでは、今後、意見書（案）を最終調整し、次回子ども・子育て会議で報告する。

#### 4 その他

(事務局：鶴川こども企画係長)

次回子ども・子育て会議は令和2年10月29日木曜日に開催予定である。

#### 5 閉会

(宍戸補佐)

以上をもって、会議を終了する。

以 上